

の情報を見ると、「摩文仁村米須」「高嶺村国吉」「喜屋武村山城」などの表記が確認できます。その中でもより具体的な場所が特定できる「大城森」という表記があります。

大城森は糸満市大里にある糸満市消防本部に隣接する丘陵です。沖縄戦が始まる前、恩納村山田に本部を置き、村の各地域に部隊を配備していた第24師団歩兵第32連隊の部隊が駐屯し要塞化していました。

しかし、米軍が沖縄本島に上陸してから約2か月がすぎると前線で負傷した兵士が次々と収容される野戦病院となっていました。32連隊の大尉の手記に「薄暗い壕内で総ての希望を失い声も出し尽したのか、黙してうつろな目で天井を見つめ死期を待っている重症兵。不気味な呻き声でしきりに傷の痛みを訴えている者。たれ流しの排便の臭いと、腐敗した屍体(ママ)が壕外に迄流れ出ている」という凄惨な状況が記されています。

その後、首里の司令部が南部へ撤退し、米軍の掃討戦が展開される中、大城森は激しい攻撃を受けました。先ほどご紹介した伊波得全さんには「敵の戦車が上がってくるから戦闘配置につくようにと言われて(配置について)その場所から大城森が攻撃されるのを見た。あそこには死んでいたはず」とその激しい状況を恩納村史戦争編の証言編に残していただきました。

防衛隊員として重傷を負いながらも南部へ移動した先述の津波古蔵正さんも南部撤退時の凄絶な様子を語っています。

「(移動する)道中には腐った人が口から泡吹いて死んでいた、臭いがひどかった。唸る人や助けてくれと言う人もいた。雨も降り泥だ

名前	行政区	戦没地	戦没日	年齢
島袋 清心	安富祖	高嶺村大城森	1945年6月5日	41
松崎 賀新	安富祖	摩文仁村大城森	1945年6月20日	25
津嘉山 朝福	恩納	高嶺村大城森	1945年6月5日	22
嘉手苅 亀助	恩納	高嶺村大城森	1945年5月21日	43
仲宗根 守榮	塩屋	高嶺村大城森	1945年5月27日	37

平和の礎に刻銘されている、大城森で戦死した村民
※平和の礎検索システムの記録のままです。



大城森入口

らけになり、臭いがすごかった」

この大城森で戦死した村民の名前が平和の礎に刻銘されています。大城森について、証言をもとにした略図が残されていますが、調査は現在止まったままです。内部も崩落しているところがあり、8か所あると言われる壕口も不明です。また壕内には戦没者の遺骨が残されていると考えられています。

県の推計でも、県全体で2613体の遺骨が未収骨(2024年3月末現在)となっており、現在米軍演習場キャンプ・ハンセンに占められている恩納岳や、村内の山中にも収骨されないまま残されている遺骨があるといわれています。

村内でも証言の聞き取りや記録収集、残されている戦争遺跡の調査、保存、活用について、少しでも進められるよう今後も取り組んでいく必要があります。

今回ご紹介した南部での体験や、村内での体験など、体験者ご本人、ご家族が持ちのどんな些細な情報でも結構ですので、編さん係までご連絡ください。(瀬戸)

恩納村史編さん係 ☎982-5112

【参考文献】

- ・「恩納村史 第三巻 戦争編」(恩納村役場 2022年)
- ・「恩納村民の戦時物語」(恩納村遺族会 2003年)
- ・「霞城連隊の最後」(高島勇之助 1974年)
- ・「第三十二野戦兵器廠履歴並戦斗経過ノ概要」(防衛省防衛研究所)